

実務者研修シラバス

社会福祉法人 青祥会

※内容は必要により見直される場合もあります。

番号	教育内容 と科目	時間	通信	通学	講義の目的・ねらい 到達目標・講義の内容・演習の実施方法
1	人間の尊厳と自立 ①人間の多面的理解 ②自立の支援 ③人権と尊厳	5	5	—	到達目標 ●尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。 講義のねらい・内容 「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。 演習方法等 ・ 基本的人権を憲法や法律から読み取る ・ 実例の検証：自立支援を考える 単位認定の方法及び基準 ・ 修了試験：筆記 ・ A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。

実務者研修シラバス

社会福祉法人 青祥会

番号	教育内容 と科目	時間	通信	通学	講義の目的・ねらい 到達目標・講義の内容・演習の実施方法
2	介護保険制度の理解 (社会の理解Ⅰ) ①介護保険制度創設の 背景と目的 ②介護保険制度の基礎的理 ③介護保険制度における 専門職の役割	5	5	—	<u>到達目標</u> ●介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 <u>講義のねらい・内容</u> 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。 <u>演習方法等</u> ・介護保険の手続きをシュミレーションしながら知識を確認する。
3	社会のしくみの理解 (社会の理解Ⅱ) ① 社会と生活のしくみ ②地域共生社会の実現に向けた制度や施策 ③社会保障制度 ④障害者自立支援制度 ⑤介護実践に係わる 諸制度	30	24	6	<u>到達目標</u> ●生活と福祉を家族、地域、社会の関連から捉えることができる。 ●社会保障制度の発達、体系、目的、財源等についての基本的な知識を修得している。 ●障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 ●成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。 <u>講義のねらい・内容</u> 人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程、社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解し、介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。 地域共生社会の考え方と地域包括ケアシステムのしくみを理解し、その実現のための制度や施策を学ぶ。また、対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を学ぶ。 <u>演習方法等</u> ・自らのライフサイクルから福祉、各制度からの支援との関係を探る。 ・在宅高齢者の介護実践事例（成年後見制度等の活用）。 <u>単位認定の方法及び基準</u> ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。

実務者研修シラバス

社会福祉法人 青祥会

番号	教育内容 と科目	時間	通信	通学	講義の目的・ねらい 到達目標・講義の内容・演習の実施方法
4	介護福祉士と介護の考え方 (介護の基本Ⅰ) ①介護福祉士の役割と機能 ②尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 ③介護福祉士の倫理	10	10	—	<u>到達目標</u> ●介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。 ● 個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ● 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。 <u>講義のねらい・内容</u> 介護の歴史を知り、介護福祉士の誕生と社会的役割の理解と安全の確保について学び、「尊厳保持」や「自立支援」について理解を深め、人間尊重を基盤とした「介護観」を養う。 多職種との協働の中で、介護職種としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、介護実践を展開する。 <u>演習方法等</u> ・現在学んでいる実務者研修等のカリキュラムや介護福祉士資格獲得のための方法などを確認しながら、必要な理念を知る。 <u>単位認定の方法及び基準</u> ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。
5	介護の基本Ⅱ ①介護を必要とする人の生活の理解と支援 ②介護実践における連携 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護従事者の安全	20	17	3	<u>到達目標</u> ●介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ● チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。 ●リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。 ●介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している。 <u>講義のねらい・内容</u> 「介護を必要とする人」を生活の観点から捉え、介護における安全やチームケア等について理解する。 <u>演習方法等</u> ・事例検討（他職種連携の実際） ・個人／GW：職場における自らが危険に脅かされる場面を出し、その対応を学ぶ。 <u>単位認定の方法及び基準</u> ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。

実務者研修シラバス

社会福祉法人 青祥会

番号	教育内容 と科目	時間	通信	通学	講義の目的・ねらい 到達目標・講義の内容・演習の実施方法
6	コミュニケーション技術 ①介護におけるコミュニケーション ②介護における コミュニケーション技術 ②介護場面における 利用者・家族との コミュニケーション ③介護における チームマネジメントと コミュニケーション	20	20	ー	到達目標 ●利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している。 ●援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる。 ●利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 ●状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。 講義のねらい・内容 介護を必要とするものの理解や援助関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。 介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォローシップなど、チーム運営の基本を理解する内容を学ぶ。 演習方法等 ・事例／GW：障害の種類や程度によるコミュニケーションの違いやポイントを事例から客観視し検証 単位認定の方法及び基準 ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。

実務者研修シラバス

社会福祉法人 青祥会

番号	教育内容 と科目	時間	通信	通学	講義の目的・ねらい 到達目標・講義の内容・演習の実施方法
7	自立に向けた 生活支援技術の基本 (生活支援技術Ⅰ) ①生活支援と ICF ②居住環境の整備と福祉用具の活用 ③移動・移乗の 生活支援技術の基本 ④食事の 生活支援技術の基本 ⑤入浴・清潔保持の 生活支援技術の基本 ⑥排泄の 生活支援技術の基本 ⑦着脱、整容、口腔清潔の 生活支援技術の基本 ⑧家事援助の基本	20	20	—	到達目標 ●生活支援における ICF の意義と枠組みを理解している。 ●ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し実施できる。 ●介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 講義のねらい・内容 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すことや見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について修得する。 演習方法等 ・介助の基本：アセスメントをふまえ紙上や実際に展開する 単位認定の方法及び基準 ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。
8	利用者の心身の状態に応じた生活支援技術 (生活支援技術Ⅱ) ①環境整備と福祉用具の活用 ②移動、移乗の 生活支援技術 ③食事の生活支援技術 ④入浴、清潔保持の 生活支援技術 ⑤排泄の生活支援技術 ⑥着脱、整容、口腔清潔の 生活支援技術 ⑦休息と睡眠の 生活支援技術 ⑧人生の最終段階における介護の生活支援技術	30	24	6	到達目標 ●以下について、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。 (移動、移乗・食事・入浴、清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・睡眠・終末期の介護) 講義のねらい・内容 「居住環境」や「身支度」の具体的な生活支援と他職種との連携・協働の重要性を学び、終末期介護の意味、チームアプローチの役割と連携できる力を養うための学習とする。 演習方法等 ・グループに分かれて一部介助・半介助・全介助を要する介護技術の根拠を確認しながら実施・評価する。 単位認定の方法及び基準 ・修了試験：筆記（70点）＋実技チェック（30点） ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。

番号	教育内容 と科目	時間	通信	通学	講義の目的・ねらい 到達目標・講義の内容・演習の実施方法
9	介護過程の基礎的理解 (介護過程Ⅰ) ①介護過程の意義と目的 ②介護過程の展開 ③介護過程とチームアプローチ	20	15	5	到達目標 ●介護過程の目的、異議、展開等を理解している。 ●介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 ●チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種 の役割を理解している。 講義のねらい・内容 科学的根拠に基づいた介護過程の意義・目的・展開のプロセスや、利用者の様々な生活の事例で考える介護過程とチームアプローチの実践について習得する。 演習方法等 ・一事例を用いて介護課程の意義・必要性等を学ぶ。 単位認定の方法及び基準 ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。
10	介護過程の展開の実際 (介護過程Ⅱ) ①介護職による 介護過程の進め方 ②介護過程の実践的展開 ③施設で暮らす 高齢者の介護過程 ④在宅で暮らす 高齢者の介護過程	25	22	3	到達目標 ●情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、 介護計画の見直しを行うことができる。 講義のねらい・内容 介護過程の理解（全体像・アセスメント・計画立案・実施・評価）や適切な介護サービスの提供ができる能力を養うための学習とする。 演習方法等 ・利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について事例を設定し、介護過程を展開させる。 ・観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察させる。 単位認定の方法及び基準 ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。
11	介護過程の展開の実践 (介護過程Ⅲ) ①片麻痺のある高齢者の 夢の実現に向けた支援 ②在宅で終末期を迎えると 家族の生活支援 ③都会に住むひとり暮らし の高齢者の生活支援 ④介護老人保健施設で生活 する利用者への支援	45	—	45	到達目標 ●これまでに学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。 ●知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて 介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。 ●介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、 他職種、他機関との連携を行うことができる。 ●知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた 介護を行うことができる。 ●各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践の科学的探求、 介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。 講義のねらい・内容 知識・技術を総合的に活用し、利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開について習得する。 演習方法等 ① 介護過程の展開の実際 ・多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・

				技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する。 ＊片麻痺のある高齢者 ＊在宅で終末期を迎える高齢者 ＊介護老人保健施設で生活する利用者 ＊都会に住むひとり暮らしの高齢者 ② 介護技術の評価 ・介護技術の原理原則の修得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価する。 ③ 知識の習得度 単位認定の方法及び基準 ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。
--	--	--	--	--

番号	教育内容 と科目	時間	通信	通学	講義の目的・ねらい 到達目標・講義の内容・演習の実施方法
12	発達に伴うこととからだの変化 (発達と老化の理解Ⅰ) ①心の変化と日常生活への影響 ②からだの変化と日常生活への影響	10	10	—	<u>到達目標</u> ●老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ●老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 <u>講義のねらい・内容</u> 人間の発達という観点から老化の意味を知り、介護の中にある倫理観を理解するための学習とする。 <u>演習方法等</u> ・加齢に伴う様々な変化を一覧表に記述し確認する。 <u>単位認定の方法及び基準</u> ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。
13	老年期の発達、成熟と健康 (発達と老化の理解Ⅱ) ①人間の成長・発達 ②老年期の発達・成熟と心理 ③高齢者に多くみられる 症状・疾病等	20	14	6	<u>到達目標</u> ●発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ●老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）との支援の留意点について理解している。 ●高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解する。 <u>講義のねらい・内容</u> 老年期の身体的・精神的変化の特徴を理解し、老年期介護の視点を習得する。 人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解する。 <u>演習方法等</u> ・GW 高齢者に多くみられる症状と疾患とその関係、生活習慣病等の講義を受けたのち、で各々が一つ疾患を取り上げてまとめ発表する。 <u>単位認定の方法及び基準</u> ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。

番号	教育内容 と科目	時間	通信	通学	講義の目的・ねらい 到達目標・講義の内容・演習の実施方法
14	認知症の基礎的理解 (認知症の理解Ⅰ) ①認知症ケアの理念と視点 ②認知症による生活障害 心理・行動の特徴 ③認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本	10	10	—	到達目標 ●認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ●認知症による生活障害、心理・行動の特徴を理解している。 ●認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解する。 講義のねらい・内容 脳・記憶のメカニズムについて知り、認知症が一つの疾患であることや、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解するための学習とする。 演習方法等 ・認知症の人のモデルを提示しどのように関わるかを紙上で展開する。 単位認定の方法及び基準 ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。
15	認知症の医学的理解と支援の実際 (認知症の理解Ⅱ) ①医学的側面から見た認知症の理解 ②認知症の心理的側面の理解 ③認知症の人や家族への支援の実際	20	14	6	到達目標 ●代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 ●認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ●地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 講義のねらい・内容 認知症の行動障害の理解と対応方法、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。 認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの基礎的な知識を理解する。 演習方法等 ・GW - 認知症の定義・4大認知症の症状、治療、介護等について各グループでまとめ発表する。 単位認定の方法及び基準 ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。

実務者研修シラバス

社会福祉法人 青祥会

番号	教育内容 と科目	時間	通信	通学	講義の目的・ねらい 到達目標・講義の内容・演習の実施方法
16	障害の基礎的理解 (障害の理解Ⅰ) ①障害者福祉の理念 ②障害による生活障害、 心理・行動の特徴 ③障害児者や家族への かかわり・支援の基本	10	10	—	到達目標 ●障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ●障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ●障害児者や家族に対する関わり・支援の基本を理解している。 講義のねらい・内容 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するための学習とする。 演習方法等 ・個人work 障害は何かを理解するためにICF等の語句の意味をまとめる。 単位認定の方法及び基準 ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。
17	障害の医学的理解と 支援の実際 (障害の理解Ⅱ) ①医学的側面からみた 障害の理解 ②障害の特性に応じた 支援の実際	20	14	6	到達目標 ●様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。 ●障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ●地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 講義のねらい・内容 障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得するための学習とする。 演習方法等 ・GW 身体機能別に障害を分類し、代表的疾患とその対応についてまとめ発表する。 単位認定の方法及び基準 ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。

実務者研修シラバス

社会福祉法人 青祥会

番号	教育内容 と科目	時間	通信	通学	講義の目的・ねらい 到達目標・講義の内容・演習の実施方法
18	介護に関係した 身体のおしくみ (こころとからだのおしくみⅠ) ①移動・移乗に 関連するからだのおしくみ ②食事に 関連するからだのおしくみ ③入浴・清潔保持に 関連するからだのおしくみ ④排泄に 関連するからだのおしくみ ⑤着脱、整容、口腔清潔に 関連するからだのおしくみ ⑦休息・睡眠に 関連するからだのおしくみ ⑧人生最終段階のケアに 関連するからだのおしくみ	20	20	—	到達目標 ●介護に関係した身体のお造や機能に関する基本的な知識を修得している。 講義のねらい・内容 介護技術の根拠となる人体のお造や機能について理解するための学習とする。 演習方法等 個人work 5つの分野についてのおしくみの表を作成する 単位認定の方法及び基準 ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。
19	心身のお造・機能と介護における観察のポイント (こころとからだのおしくみⅡ) ① 人間の心理 ② 人体のお造と機能 ③移動・移乗に おける観察のポイント ④食事に おける観察のポイント ⑤排泄に おける観察のポイント ⑥入浴・清潔保持に おける観察のポイント ⑦着脱、整容、口腔清潔に おける観察のポイント ⑧休息・睡眠に おける観察のポイント ⑨人生最終段階のケアに おける観察のポイント	60	48	12	到達目標 ●生活支援の場面に応じた心身への影響を理解している。 ●人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的な知識を修得している。 ●生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体のお造と機能についての基本的な知識を修得している。 ●身体のお組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。 講義のねらい・内容 介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解するための学習とする。 演習方法等 科目の①～③に講義を取り入れて展開し、知識の確認と評価を行う(紙上での試験)。 単位認定の方法及び基準 ・修了試験：筆記 ・A＝90点以上、B＝89～80点、C＝79～70点、D＝70点未満の4段階で評価しC以上の評価を合格とする。

実務者研修シラバス

社会福祉法人 青祥会

20	医療的ケア ①医療的ケア実施の基礎 ②喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順) ③経管栄養 (基礎的知識・実施手順) ④演習	50 + 演 習 10	32	18 + 演 習 10	到達目標 ●医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。 講義のねらい・内容 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。 演習方法等 ・喀痰吸引 口腔 5 回以上 ・鼻腔 5 回以上 ・気管カニューレ内部 5 回以上 ・経管栄養 胃ろう又は腸ろう 5 回以上 ・経鼻経管栄養 5 回以上 ・救急蘇生法演習 1 回以上 単位認定の方法及び基準 ・演習時の指定回数をクリア+修了試験：筆記 ・A＝90 点以上、B＝89～80 点、C＝79～70 点、D＝70 点未満の 4 段階で評価し C 以上の評価を合格とする。
----	--	-------------------------	----	-------------------------	---